

我が国のBSE発生から20年が経過して -混乱から生じて現在に引き継がれる社会変容-

会場

北海道大学獣医学部講堂

(北18条西9丁目 地下鉄南北線北18条駅から徒歩15分)



地図はこちら

令和6年

11月30日(土)

11:00-12:30
(10:30開場)

BSE発生に伴い学び経験した「正の遺産」を
将来の糧として、食の安全・安心、感染症対策
に活かすことを意識して、当時の騒動の最中で
奮闘した方々から話題提供いただきます。

申込不要
参加費無料

講演者

吉川 泰弘 (東京大学名誉教授)
「日本のBSE発生から約四半世紀を経て」

川越 匡洋 (厚生労働省)
「我が国におけるBSE発生後の対応についてー厚生労働省における対応ー」

菊池 栄作 (北海道大学)
「食品安全委員会のBSEに関するリスク評価」

岩丸 祥史 (農研機構)
「牛海綿状脳症(BSE) 今昔」

平野 誠 (株式会社ゼンショーホールディングス)
「「BSE と食の安全」の取り組み」

ファシリテーション：堀内 基広 (北海道大学)

お問い合わせ：北海道大学大学院獣医学研究院・獣医衛生学教室 jyueisei-jimu@vetmed.hokudai.ac.jp
<https://vethygiene.vetmed.hokudai.ac.jp/apps2024/>

市民公開講座

我が国の BSE 発生から 20 年が経過して -混乱から生じて現在に引き継がれる社会変容-

2001 年に我が国で BSE の発生が確認されてから 20 年以上が経過しました。サーベイランス、飼料規制、トレーサビリティの導入により、当時世界的に問題となっていた定型 BSE (C-BSE) の発生は世界的に制御下にあります。ただ、2024 年に英国で C-BSE が摘発されたように、根絶されたわけではありません。

BSE は伝播力が弱いウシの病気です。しかし、ウイルスや細菌と異なり、遺伝情報の担い手である核酸を持たず、タンパク質から構成され、各種消毒・滅菌法に著しい抵抗性を持つ「プリオン」と呼ばれる病原体の特殊性、治療法がない致死性の病気であること、「食」という不可避の行動を介してヒトが感染する可能性があること、などから、社会が脅威と不安を感じ、世界的に大きな混乱を生じました。

困難な状況に陥るほど、人間の英知は発揮され、問題を克服するための大きな社会変容をもたらします。当時を振り返ると、1996 年の腸管出血性大腸菌大規模食中毒、2000 年の黄色ブドウ球菌大規模食中毒事件に続き、2001 年に我が国初となった BSE 感染ウシの摘発は、食の安全・安心を根底から覆す出来ごとであり、食品安全基本法の制定、食品安全委員会の設置、科学知見に基づくリスク分析、ステークホルダーを交えてのリスクコミュニケーション、トレーサビリティの導入など、多くの変化をもたらしました。その変化の中には、緊急時対策として、食肉衛生検査に BSE スクリーニング検査を導入して人への感染を絶つという、不可能を可能にするような、劇的な事例もありました。

この歴史的な出来事を風化させずに、将来への教訓として語り継ぐために、折に触れ振り返る必要を感じます。本市民公開講座は、BSE 発生に伴い私たちが学び経験した「正の遺産」を将来の糧として、新たな感染症対策、食の安全・安心に活かすことを意識して、当時の騒動の最中で奮闘した方々から話題提供いただきます。

日時：令和 6 年 11 月 30 日（土） 11：00-12：30

場所：北海道大学獣医学部講堂（北 18 条西 9 丁目 地下鉄南北線北 18 条駅から徒歩 15 分）

参加費：無料

講演者

吉川 泰弘（東京大学名誉教授・岡山理科大学名誉教授）

当時の騒動を振り返る（仮題）

川越 匡洋（厚生労働省 健康・生活衛生局 食品監視安全課 課長補佐）

厚生労働省の対応を振り返る（仮題）

菊池 栄作（北海道大学 One Health リサーチセンター 特任准教授）
食品安全委員会の対応を振り返る（仮題）

岩丸 祥史（農研機構 動物衛生研究部門 動物感染症研究領域ウイルスグループ グループ長）
感染実験から得られたこと（仮題）

平野 誠（株式会社ゼンショーホールディングス 取締役）
食の安全・安心を大切にする民間会社の想い（仮題）

ファシリテーション：堀内 基広（北海道大学 大学院獣医学研究院 教授）

お問い合わせ：

北海道大学大学院獣医学研究院・獣医衛生学教室

jyueisei-jimu@vetmed.hokudai.ac.jp

<https://vethygiene.vetmed.hokudai.ac.jp/apps2024/>

主催

北海道大学 One Health リサーチセンター

共催

厚生労働科学研究費「食用動物等のプリオン病の病態機序およびヒトへの感染リスクの解明に関する研究」

APPS (Asian Pacific Prion Symposium) 2024

北海道大学 One Health フロンティア卓越大学院プログラム

アクセス



獣医学研究院・獣医学部

■講義棟 Lecture Building

